

ハナシノブの開花に及ぼす電照及び播種期の影響

岩本英伸・東 隆夫 (熊本県農業研究センター)

Eishin IWAMOTO and Takao HIGASHI: Effects of
Lighting and Seeding Time on Flowering of
Polemonium kiusianum KITAM

ハナシノブは熊本県阿蘇地域の草原に自生する多年草で、自然条件下における開花は6月から8月頃にかけてみられる。現在わずかながら経済栽培が行われているが、今後栽培面積の増加を図るためには開花期の拡大が不可欠である。そこで、ハナシノブを早期に開花させ促成作型を確立する目的で、開花に及ぼす電照と播種期の影響について検討した。

1. 材料及び方法

試験は最低気温を15°Cに保ったガラス温室内で、電照の有無と播種期を組み合わせで行った。1992年9月1日から12月1日まで1か月ごと及び1993年1月4日に播種し、播種後30~36日に直径10.5cmの黒色ポリ鉢に鉢上げして育苗した苗を、播種後78~88日に直径18cmの黒色ポリ鉢に移植して栽培を行った。鉢は幅1mのベッドに20×20cmの間隔で並べた。電照は1993年1月4日に開始し、深夜3時間(23:00~2:00)の光中断とした。1区20株を供試した。

2. 結果及び考察

電照区における抽台は9月1日播種では電照開始後まもなく始まったが、10月1日播種ではそれよりやや遅れ、その後は播種期が遅くなるにつれて遅くなった。このように抽台がおこるためにはある程度株が生育していることが必要であった。無電照区では1月4日播種以外で2月下旬~3月上旬頃から少しずつ抽台株が増加したが、電照区に比べ揃いが悪かった。1月4日播種は抽台の開

始が遅れた。

主茎の開花日は電照区では9月1日播種が3月10日で最も早く、播種期が遅くなるにつれて遅れ、1月4日播種では5月10日であった。無電照区では1月4日播種以外は播種期に関係なく5月20日前後で、1月4日播種はやや遅れた。また開花日の揃いは電照区に比べ悪かった。開花株率は電照区が全ての播種期で100%であったのに対し、無電照区では未開花の株がみられた。採花本数は全ての播種期で電照区が無電照区より多かった。また播種期により採花本数に差がみられたが、播種期の早晩との間に一定の傾向は認められなかった。しかし電照区、無電照区とも切花重の重い切花の本数は播種期が早いほど多かった。切花形質は電照の有無にかかわらず播種期が遅くなるとボリュームがなくなる傾向があった。花房の節数は無電照区では播種期が遅くなると少なくなったが、電照区では差は小さかった。花房下葉数は電照区では播種期が遅くなると極端に少なくなったが、無電照区では差は小さかった(第1表)。

以上のように、加温と電照によりハナシノブの開花期を大幅に早めることができ、促成栽培が可能と考えられた。この場合播種後100日程度が経過し、生育が進んだ後に電照を開始することでボリュームのある切花が得られた。加温だけで電照をしなければ自然条件下での開花期より1か月早くなる程度であった。

第1表 開花及び切花形質に及ぼす電照及び播種期の影響

電照	播種日	主茎開花日	開花株率	採花本数(内41g以上)	切花重	切花長	花房長	花房節数	花房下葉数	茎径 ^{a)}
	(月・日)	(月・日)	(%)	(本/株)	(g)	(cm)	(cm)	(節)	(枚)	(mm)
有り	9.1	3.10±7 ^{b)}	100	3.60 (1.20)	38.0±19.0	130.1±15.4	27.4±15.0	14.9±2.8	20.0±3.2	3.7±1.1
	10.1	3.17±8	100	2.60 (1.05)	44.4±25.5	126.2±22.6	32.4±21.9	15.1±3.8	17.6±4.1	4.0±1.5
	11.1	3.30±5	100	3.25 (0.80)	30.0±18.4	108.8±20.4	31.2±22.0	14.6±3.8	11.8±3.2	3.7±1.4
	12.1	4.21±6	100	4.40 (0.15)	19.9±9.8	92.0±16.0	24.0±11.3	14.4±2.4	10.9±3.3	3.0±0.9
	1.4	5.10±6	100	3.45 (0.10)	20.7±10.2	96.6±16.6	26.9±18.3	16.1±3.2	10.2±3.3	3.1±1.1
無し	9.1	5.22±18	100	2.65 (1.15)	39.8±17.9	112.4±17.7	30.7±12.3	18.1±2.8	22.6±4.6	3.7±0.9
	10.1	5.17±17	95	2.10 (1.20)	47.1±20.0	120.5±16.6	31.7±11.8	18.7±2.8	26.2±5.7	3.7±0.9
	11.1	5.15±18	85	2.70 (0.95)	34.2±15.2	109.4±15.5	22.4±9.6	16.4±2.9	23.2±5.2	3.0±0.7
	12.1	5.18±10	95	3.60 (0.70)	29.9±13.5	111.4±15.0	21.0±9.3	16.0±2.5	21.9±4.7	2.9±0.7
	1.4	5.26±7	100	2.95 (0.30)	25.0±10.0	101.0±16.4	18.7±8.7	16.1±2.5	18.5±3.0	2.8±0.6

注) a) 花房の直下を測定 b) 平均±標準偏差